

第 14 回多可町就学前教育・保育検討委員会会議録

- 1 日 時：平成 23 年 8 月 17 日(火)15:00～17:00
- 2 場 所：多可町中央公民館 小会議室
- 3 出席者：
- 委 員 鈴木委員、青山委員、上郡委員、有田委員、安平委員、西田委員、
仲田委員、岡本委員、吉田委員、原委員、越川委員
- 事務局 教育長、藤本副課長、浦川
- 協議事項
- (1) 答申(案)について

委員長	答申(案)の修正について事務局から説明願いたい。
事務局	(会議資料「多可町就学前教育・保育のあり方への提言(答申)(案/第 14 回修正版)」に基づき、事務局案を提案。)
委員長	前回から大きく改めた「5 地域の実態や幼保一元化の流れを考慮した中区の諸施設の適正配置について」とそれ以前の「1 めざす子ども像について」から「4 保育サービスのあり方について」までに分けて検討する。まず、1 から 4 までの修正箇所について意見はないか。
委 員	「2 今後の就学前教育・保育についての基本的な考え方」の修正の意図を教えてください。
委員長	ビジョンを実現するために幼保一体化に関するものとそうでないものを分けた上でこれまでの協議結果を反映させている。
委 員	「《現状及び検討内容》」の(10)の下に、他の項目と同様、「検討課題としました」の文言を入れてはどうか。
委員長	特に異論がないのでそのようにお願いします。
委 員	(2 頁、2 《検討結果》の)(9)に「保育・教育職員」となっているが、保育士のことか。
委員長	栄養士や調理員も含む。保育士だけとは限らない。「教育・保育職員等」に訂正する。
委 員	6 頁の「(4) 休日保育」「ア 実施の必要性」の中の接続詞はなぜ「しかし」か。説明がなければ分からない。「しかし、休日保育は」としてはどうか。
委員長	より明確になるのでそれでよい。「しかし」の後に「休日保育は」を挿入し、「したがって」を「そこで」に変える。状況が変わってから、ファミリー・サポート・センターの検討を要するというこで、このとおりとしたい。
委 員	「4 保育サービスのあり方について」の別添資料の取扱いをどうするか。答申に全て付けるか、それとも、省略するか。
委員長	委員は付けた方がよいと思うか。
委 員	ネット上にも資料が公開されているので、省略して答申はなるべくシンプルにした方がよいと思う。

委員長	資料が入手可能であれば改めてつける必要はないと思う。体裁の問題なので資料はシンプルにすればよい。
副委員長	(11 頁の)「(12) 職員配置について」で保育所の場合は児童が 32 人でも「おおむね」なので保育士が 1 人となりうるが、幼稚園の場合は児童が 32 人ならば教諭は 2 人となる。これはそのまま変更がないのか。
事務局	町内の公立保育所はすでに幼保一体化の園になっており、乳児は 3 人以下に保育士 1 人、1～2 歳児は 6 人以下に保育士 1 人、3 歳児は 20 人以下に保育士 1 人、4～5 歳児は 30 人以下に保育士 1 人という体制がとれるが、民間の保育所では現状ではそうでないので、「おおむね」ととれない。民間保育所も幼保一体化されれば統一できると思う。ただし、これには財政部門との協議の必要がある。
委員	転入など年度途中で入園したい児童に対しては、「おおむね」とすることによって、入園できるようにしている。かつて、混籍になる前、幼稚園部と保育園部で分かれていた頃は年度途中で幼稚園に入りたい子があった場合に、「概ね」でないと入園できなかった。
事務局	現状では年度当初に多めに職員を配置しているのでその問題はない。キッズランドかみを作る前の段階のものなので現状とはちぐはぐする部分もある。
委員長	今後、民間は「おおむね」ととどめるようにするのか、それとも改善するのか。
副委員長	公立と私立の格差は現場には分かるが住民の方に分かるか。
委員	当町として国基準であるこども園の基準に合わせるのは当然のことなので、11 頁の書き方はこれでよいのではないか。
委員長	(「現行の」を削除し、最後に「改善を図る」の一文を加える。)
委員	2 頁の《検討結果》の(7)で「国基準及び県基準での適正かつ必要な職員の配置に努める」と述べているのでここで変えすぎてもいけないと思う。
委員長	前項でそのように述べているのでここは変えない。
委員	12 頁の養護教諭の配置について平成 23 年度より町内で(従前の 1 名から)2 名になっているのでそれを書かなくてよいか。
委員	進捗したことは括弧書きで記載するので、「(平成 23 年度より 1 名増員して 2 名配置...)」とする。
委員長	次に、「4 地域の実態や幼保一元化の流れを考慮した中区の諸施設の適正配置について」。まず、保護者のご意見を伺いたい。
委員	こういった格好でいかないと思う。保護者の間では「中町幼稚園が廃園になるからどうしよう」という意見が先走っている。「5 歳児になっても保育所のみであれば実績がないので大丈夫か」という不安の声も聞く。今までの先生の教育は大丈夫か。「本当は中町幼稚園に入れたいけど廃園になるからどうしたらええんやろう」という声もちらほら聞く。(実際に保育所が 5 歳児を受け入れて) 1 年過ぎたらこのような声も少なくなるのではないか。後何年間では中町幼稚園があるというアナウンスがないまま、私立保育所が認定子ども園になると中町幼稚園が廃園されられている。町は保護者や町民に

	対し早めにアナウンスを入れた方がいいのではないか。保育所が認定子ども園でできると分かれば不安がなくなるかも知れないが今は不安が先走っているのではないか。
委員	中区のお母さんから中町幼稚園がなくなってしまうと不安の声を聞いたことがある。「今まであったものがなくなってしまうのがいや」、「これからどうなるの?」など。
委員長	本当はどうあってほしいと思うか。
委員	難しい。こうとは言えない
委員	自分も中町幼稚園がなくなるということに心が揺れるが、少子化が進行するとこのような風が吹かなければならないと思う。「廃止する」に目がいってしまうが、地域の人に分かって頂ければよいのではないかと思う。「その上で」が2つ連なるのが気になる。2つ目の「その上で」はなくてもよい。
委員長	幼稚園閉園の時期が明記されていない。実際は今後検討されることになると思うが保護者や町民に意識していただく必要があり検討を後につなぐ。
委員	幼稚園の経験なしにどうやって就学前の教育をするか。キッズランドかみには幼稚園の先生がいるので「(5歳児の幼稚園で)こうやっている」というのが分かるが、私立保育所には(5歳児への教育が)現状ではないので少しの間は中町幼稚園を残し5歳児でも就労されていない家庭は中町幼稚園に行くようにした方がよいと思う。預かり保育がなくなっても保護者が選択できればよい。その間に私立保育所が5歳児の教育の仕方を徐々に勉強していったらよいと思う。4歳児と5歳児では大きくなって違う。経験がない所に一度に受け入れると保育所も大変だと思う。
委員	本来の幼稚園のあるべき姿を存続してほしい。子どもの人数が少なくなるし、短期で過ごす子どもも少なくなると思うが、3～5歳で中町幼稚園を残してほしい。
委員	前回に比べると答申が丁寧になっている。中区のお母さんは不安を持っておられるので、町行政が説明責任を果たすのが大事。地域間の公平性といっても中区は加美区、八千代区と状況が違う。子育てふれあいセンターもキッズランドやちよと併設なので連携ができています。また、キッズランドかみも今年の4月に開園したが子育てふれあいセンターを受け入れてくださっているので、中区でも連携できるようにしたい。
委員長	認定こども園化されると子育て支援ができるようになる。風通しをよくし、連携できる方がよい。中町幼稚園のけやきグループも残す方向で考えていただきたい。
委員	加美区、八千代区に対して町が入れている力とこれから中区の私立保育所に対して同じぐらいの力を入れることができるのか。財政的にどこまでできるかということがある。今でも私立保育所でも5歳児を受け入れようと思えばできるのか。
委員長	5歳児受入に合わせた保育所の配置、施設の準備ができていない。小規模園で

	は4～5歳児混合のクラスとなる。
事務局	制度的には問題はないが、人数が多くなると施設整備が必要。
委員	施設整備の試算はされているのか。
事務局	まだ試算していない。答申ができてからになる。
委員長	先にはしごをはずすのは保護者にとっても不安。預かり保育をなくすのは保育所の5歳児受入の準備ができてからとする。保育所でも子どもがちゃんと育つということが分かれば保護者の不安もなくなるかもしれない。
委員	3歳児のお母さんに「来年になったら今通わせている保育所が認定子ども園になってここにおらんとあかんのとちゃうか」という声がある。保育所に5歳児への教育・保育ができるということを見せてもらわないと動けないと思う。「こうなったらこうなる」というのを保護者がパッと見て分かるような図があったらよい。
委員長	「2 今後の就学前教育・保育についての基本的な考え方」の《検討結果》に「(2)各園は、保育・教育活動の検証と情報公開に努める」とあるが、私立保育所にも、オープンスクールや幼稚園ウィークのような公開の場を設けていただきたい。また、「(10)教育委員会は、検証委員会等を組織して、定期的に就学前教育・保育の進捗状況の検証する」としている。
委員	13頁の第2段落では、私立保育所全てが経営できなくなるように見え、脅しのようにとらえられかねない。
委員長	今後の人口動態をみると、私立保育所全体としては多かれ少なかれ、その危惧がある。
事務局	民間保育所の経営を圧迫しないことは思想としては大事だが、民間保育所のために中町幼稚園を閉園するようにとらえかねないのではないか。
委員	時期が明記されていないことから、前回の案と比べると最大限やわらかくなっている。文言で「住民及び利用者」を「保護者及び住民」に、「関らず」を「拘らず」に直していただきたい。先日、私立保育所の3園に行ったが、どこも一生懸命にそれぞれの特色を活かしながらいい環境で保育をされていると感じた。また、みどり保育所は看護師がいて、このような恵まれた環境があることを知っていただきたい。あさか保育所は施設的にも問題なく近くに農園もあり、子育て支援の部屋もある。5歳児を受け入れる予定の部屋もある。みどり保育所には更地があるのでそこに5歳児を受け入れるための部屋を作ることもできる。四恩保育所は少子化で子どもが減っているので、5歳児を受け入れることも可能。伝統があり地域の支えもあり、モンテッソーリ教育に取り組まれている。中区の私立保育所はそれぞれ特色のある保育をされており、実績があるので、これからもそれを生かしたい。キッズランドかみの所長からは教育の部分で不安があるとの発言があったが、保育士の皆さんは幼稚園教諭の資格も持っておられるので十分対応できると思う。認定子ども園化するならば私立保育所の方が補助制度が充実している。中区の3～5歳の児童を世帯の就労状況に拘らず就園させるという課題を解決させるために、私立保育所の認定子ども園

	も園化を進めていきたい。
副委員長	中区の住民であれば不安でいっぱいになると思う。私自身はこれまでこの委員会で検討してきたのでこれでよいと思うが、今後は行政の責任において住民の皆さんに説明していかなければいけないと思う。家族が加西市の富合幼稚園に行っていたが、定員割れとなって、あと1～2名入らなければ園が存続できないということがあった。(前回からの修正で具体的なスケジュールがなくなったが、)私は、突然に閉園となるよりスケジュールがあり見通しが立ったほうがよいと思う。
事務局	昨年度、三木市から幼稚園閉園の基準があるかとの照会があった。
委員長	どのぐらいで園の運営が成り立たなくなるのか。
副委員長	60人以下ではないか。
委員	30人。
委員長	他市町ならば16人でも残している。30人をきると1クラスになる。単学級となるのを基準とするならば30人か。
委員	小学1年生は35人。
委員長	小学校の場合は1学年単クラスとなっても閉校するわけではない。先進国では30人というのは多い方で、30人で1クラスというのはクラスの規模が多すぎて質としてはよくない。
委員	複数クラスあった方がよいというのは間違いない。単クラスになると子どもがかわいそう。
委員長	加西市は16人を基準としている。しかし、30人が妥当な線ではないか。現在ならば中区全体の出生数の半数に当たる。
委員	幼稚園は5歳児にこだわらずに存続させてもよいのではないか。
委員長	このことは、今後、中町幼稚園のあり方を考える際に検討していただければよいのではないか。
委員	具体的なことはこの答申を受けた事務局が行政として判断すればよいと思う。
委員長	この提言を受けて行政がよりよい教育・保育を実現するために判断するということでよいか。
委員長	最後に、委員から感想をお願いしたい。
委員	少子化で園の経営が成り立たなくなるのは分かるが、どうすれば子ども達と保護者が安心してこの町に住めるかを考えてほしい。
委員	子どもが育っていくのをみんなで支えることができればよいと思う。
委員	6頁の1文と2文をひっくり返した方がよいと思う。13ページにもあるが、説明責任を果たし、保護者の合意を得るのが大事と思う。
委員	現場だけでなく地域住民と一緒に子どもを育て、多可町が子育てを楽しめる町になったらよいと思う。
委員	何もない。最初のキッズランドかみの話から何故ここまできたのかが大きなクエスチョン。中町幼稚園がなくなるというのはさびしい。
委員	重たい会議だったと思う。子育て支援で前へ進むことができたので今後に生か

	していきたい。
委員	これまで学校に勤めたこともあったが、公立の小中学校がなくなるということは考えたことがなかった。本当に少子化がここまで来たか、大変なことだと思う。幼稚園、保育所だけでなく、町の存続に係わるところまで来て何とかならないかと思うが、少子化対策をやっているが目に見えた形にならないのがしんどい。
委員	保護者や関係者の意見を聞き取りながら町として判断していきたい。町の経営の観点からも考えなければならないが、教育には手厚くしたい。
委員	14回にわたり検討いただきありがとうございます。保護者や各施設の意見を踏まえながら今後の施策を検討していきたい。
副委員長	キッズランドやちよを作ったときは、みんなでやろうという意識の中で保護者からの不安の声も聞かずにやれた。中区の保護者に不安があるかもしれないが、幼保一体化をアピールして不安を取り除いていただきたい。八千代町で町の3%以上の予算をつぎ込んでいるかどうかで町の熱意が分かると言われたことがある。これからもうまくやっていただけると思う。
教育長	まずはお礼を申し上げたい。目指す子ども像から職員のあり方、加美区のあり方、中区のあり方を検討いただいた。これらの提言を踏まえた上で、町としてどうするか、これからの子どもをどう育てていくか、効率性だけでなく、人材の育成という観点からも財政と調整しながら検討したい。また、行政としての説明責任を果たし住民、さらに、保護者の合意を十分に得るようにしたい。本当にありがとうございました。
委員長	議会、町に対して建設的な政策立案をしていただきたい。説明責任をはたし、保護者や子どもの声に耳を傾けていただきたい。この提言を実現するために行政職員の協力をお願いしたい。
	委員を代表し、委員長及び副委員長が教育長に対し答申を行う。